

## 子育て支援の推進

アナ： 「市長が語る 2018 三島」第8回の今日は、「子育て支援の推進」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： 三島市では、ここ数年、子どもや子育てを支援する事業が充実してきましたね。

市長： ありがとうございます。近年の都市化、核家族化、少子化など、家庭を取り巻く社会環境の変化の中で、子育てが個々の家庭にすべて委ねられてしまう傾向があるため、孤独感に悩み、育児不安を持つ親が増えています。子どもを持つ親で、初めから完璧な親はいません。誰もが周りに助けられながら、親になっていくものです。地域が子育て家庭を見守り、支え、また、子育て支援によって地域住民のつながりが生まれることが、安心して子育てができる環境につながると始めたのが「子どもは地域の宝事業」です。

アナ： 子育て中の親御さんにとって、子どもが生まれた地域で、安心して楽しく子育てができることは、何より嬉しいことだと思います。

最近、それらの事業が評価されたと伺いましたが。

市長： 民間の発行した本年2月号の移住サポート雑誌の特集記事、「『住みたい田舎』ベストランキング」の東海4県エリアにおいて、三島市が「子育て世代が住みたい田舎」の第1位に選ばれました。

アナ： それは、おめでとうございます。嬉しいニュースですね。

市長： ありがとうございます。三島市は、富士を仰ぎ自然にも恵まれ、そして、首都圏へのアクセスも抜群と、子育て世代が生活を楽しむ環境が整っています。先ほどの「地域の宝事業」の他にも、転入した親子に情報交換の場を提供する「三島で子育て応援サロン」や双子などの育児を保育士がサポートする事業など、数多くの事業を展開しています。特に、子育て家庭の身近なところで情報提供や相談を行っている「子育てコンシェルジュ」では、平成29年度の1年間で延べ605件もの相談に応じるなど、子育て家庭に寄り添った様々な取り組みが高く評価された結果と捉えています。

アナ： そうですね。子どもをもつお父さんお母さんが市の子育て支援事業に寄せる期待は、大変大きいと思います。今後も、子育て支援に関する事業は引き続き充実されていくのでしょうか。

市長： 今年度におきましては、多くの子育て家庭で活用されている「子ども医療費」につきまして、通院と入院にかかる費用の完全無料化を、この10月から新たに高校生相当の年齢にまで拡充し、子育て世帯の経済的負担の軽減に繋げていきます。

アナ： それはありがたいですね。子ども医療費無料の年齢拡大、たいへん心強いです。  
次に、三島市における保育園と幼稚園の保育料について、教えていただけますか。

市長： 三島市では、保育園と幼稚園の保育料を、国が定める額から、平均して4割ほど減額しております、県内でもトップクラスの安さとなっております。

更に、国の定める世帯の年収制限や、兄弟の年齢制限を撤廃して、生計を同一にしているご家庭内の、2人目のお子様を半額、3人目を無料としております。

また、民間の幼稚園に通われるお子様のいるご家庭につきましても、就園奨励費という保育料の助成を、兄弟の年齢制限を撤廃して算定するなど、保育園、幼稚園に通われるすべてのご家庭の経済的な負担を軽減しております。

アナ： なるほど。このような保育料サービスがあると、お子様が2人以上いるご家庭も三島市が子育てしやすい街であると実感できそうですね。

ほかには、どのような子育て世帯への支援がありますか。

市長： かねてより要望の高かった公立幼稚園での3歳児保育ですが、平成30年度から新たに4園を加え、公立幼稚園全11園で実施することといたしました。今までは、ご近所の公立幼稚園に3歳児クラスがなかったため、3歳の時には別の幼稚園に行き、4歳から近くの公立幼稚園に転園するということがあったようですが、今後はすべての公立幼稚園で、3歳児の年少クラスから入園できるようになります。

アナ： 初めて集団生活を経験する場となる幼稚園・保育園の充実は、親御さんにとって、たいへんありがたいと思います。

市長： 三島市では、今後も、行政だけではなく、自治会や町内会、地域の子育て支援団体、産業界までもが一緒になり、子どもやその親の育ちを応援してまいります。昨年度から、乳幼児を連れてご家族が気軽に外出できるように、街中で授乳やおむつ替えのできる施設事業所を「あかちゃんのへや」として登録し、PRしているところですが、商店街の店主からは、「子どもは地域の宝。気軽に利用してくれると嬉しい。」と、若いお父さんお母さんへのエールが送られていると聞いています。

ぜひとも、多くの子育て世代に、三島での子育てを楽しんでいただきたいと思います。

アナ： 豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。